

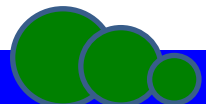


環境省のマリモに関する取組

1. シュリコマベツ湾のマリモ
 - (1) 阿寒湖のマリモに関する歴史
 - (2) シュリコマベツ湾のマリモ

2. シュリコマベツ湾での環境省の取り組み
 - (1) 取組経緯
 - (2) 取組概要
 - (3) 阿寒湖のマリモ保護管理全体の中の位置づけ
 - (4) 目標

3. 令和5年度の取組



1 (1) 阿寒湖のマリモに関わる歴史

■阿寒湖のマリモの歴史と生育状況の概要■

- 明治大正時代 シュリコマベツ湾でマリモ初確認(M30)、天然記念物指定(T10)
採取売買、発電利用での水利用・水位低下、木材流送による生育環境への悪影響
- ～昭和30年代 観光船投錨によるマリモ群生地攪乱、更なる水利用・水位低下によるマリモ被害、
シュリコマベツ湾でマリモ消失、マリモ愛護会発足・第1回まりも祭開催(S25)、マリモ保護監視人設置、
国立公園指定(S9)、特別天然記念物指定(S27)、発電による水利用水位低下制限、遊覧船乗入禁止
→→→→発見後50年で生育地消滅も、ここまでに初期の悪影響要因への対策はかなり進んだ
- 昭和40～60年代 観光活発化による阿寒湖水質汚染と汚染防止対策(沈殿池・湖底浚渫・公共下水道設置)
マリモ展示観察C完成、マリモ保護会設立、チュウルイ湾で球状マリモ生育量4割減(1973→1985)
→→→→新たな悪影響要因の出現と対応、マリモ生育環境悪化の可能性
- 平成年代 専門学芸員配置、レッドリスト絶滅危惧 I 類指定、生育環境保全協定締結、ラムサール条約湿地登録
盗採事件(H18)、水生植物分布拡大によるチュウルイ湾でのマリモ分布面積減少(1997→2011)
マリモ保護管理計画策定(H24)
→→→→マリモ保護(適正利用含む)の基盤が整い始め、保護の大方針や目指すイメージが示された
- 現状 湖の水質汚染対策は実施され透明度は回復傾向だが水質基準(COD等)をクリアできない状況が継続
チュウルイ湾での分布面積の回復は見られていない、シュリコマベツ湾でも未だマリモは復活していない



1 (2) シュリコマベツ湾のマリモ

■シュリコマベツ湾のマリモに関する記述抜粋■

- 明治30年 ・シュリコマベツ湾でマリモ初確認
- 大正 7年 ・マリモは湖内3箇所に見られ、いづれも湖岸近く深さ3・4尺～10数尺程の湖底に相敷き相重なりて横たわる
・この湖より多く採集して帝都に送り販げる者あり
- 大正10年 ・湖内4箇所に見いだされた。いづれも湖岸に近く、ヨシの生育する浅い水底に点在し、あるいは畳積して極めて多量に生じていた。これらの生育付近には必ず流入する小川があり、湖底は泥土だった。
・シュリコマベツは湖が西北に湾入した場所で、湖岸に沿い広い地積にわたってマリモの大球が3, 4層積して多数見られた
- 昭和12年 ・昭和4年尻駒別川上流で●●経営の伐木行われ、木材は河水により湖中に流送されたため水質汚濁し、昭和6年にはマリモの腐死が生じたが、その後伐採事業が廃止され、ついに被害がなくなったと云う……
・今日にてはマリモは著名となり、観覧船頻りに往来し、風波ある時はマリモが密集する所へ投錨して、このためマリモ群落を攪乱するに至ることありと云う
- 昭和18年 ・流送のため壊滅に帰す
- 昭和26年 ・シュリコマベツのマリモは現在稀に点生的にあるにすぎない
- 昭和31年 ・シュリコマベツでは調査では見いだせず。30年間にかくも多量にあったものの大部が消滅したことは疑いない。付近の湖水は著しく汚濁していた。
- 昭和33-35年 ・現在ではシュリコマベツは全く荒廃している。大部分軟泥で悪臭を放つものが多い、
・マリモの小型集団はシュリコマベツ河口近くと北岸の砂地に各1箇所知られた。糸状体も河口に痕跡的に見られた。
・先年シュリコマベツにマリモ移植したが今は全く見る影もない。
- 昭和47年 ・シュリコマベツ河口沖の水深1-1.5mの水草ない砂地に1-2cmのものが稀にあった。



2 (1) 取組経緯

平成28年度～

- 国立公園満喫プロジェクト開始
チュウルイ湾でのマリモ学習ツアーの検討開始



令和元年度

- チュウルイ湾でのマリモ学習ツアー実施によるマリモ生育への悪影響懸念
シュリコマベツ湾でのマリモ生育復元再生と学習ツアー実施の検討に方向転換



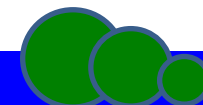
令和2～4年度

- シュリコマベツ湾での取組開始
 - > 疑似マリモによるマリモ育成試験
 - > 水草刈り取り(生育環境改善)と効果検証
 - > 地域関係者による現地見学会・意見交換会等



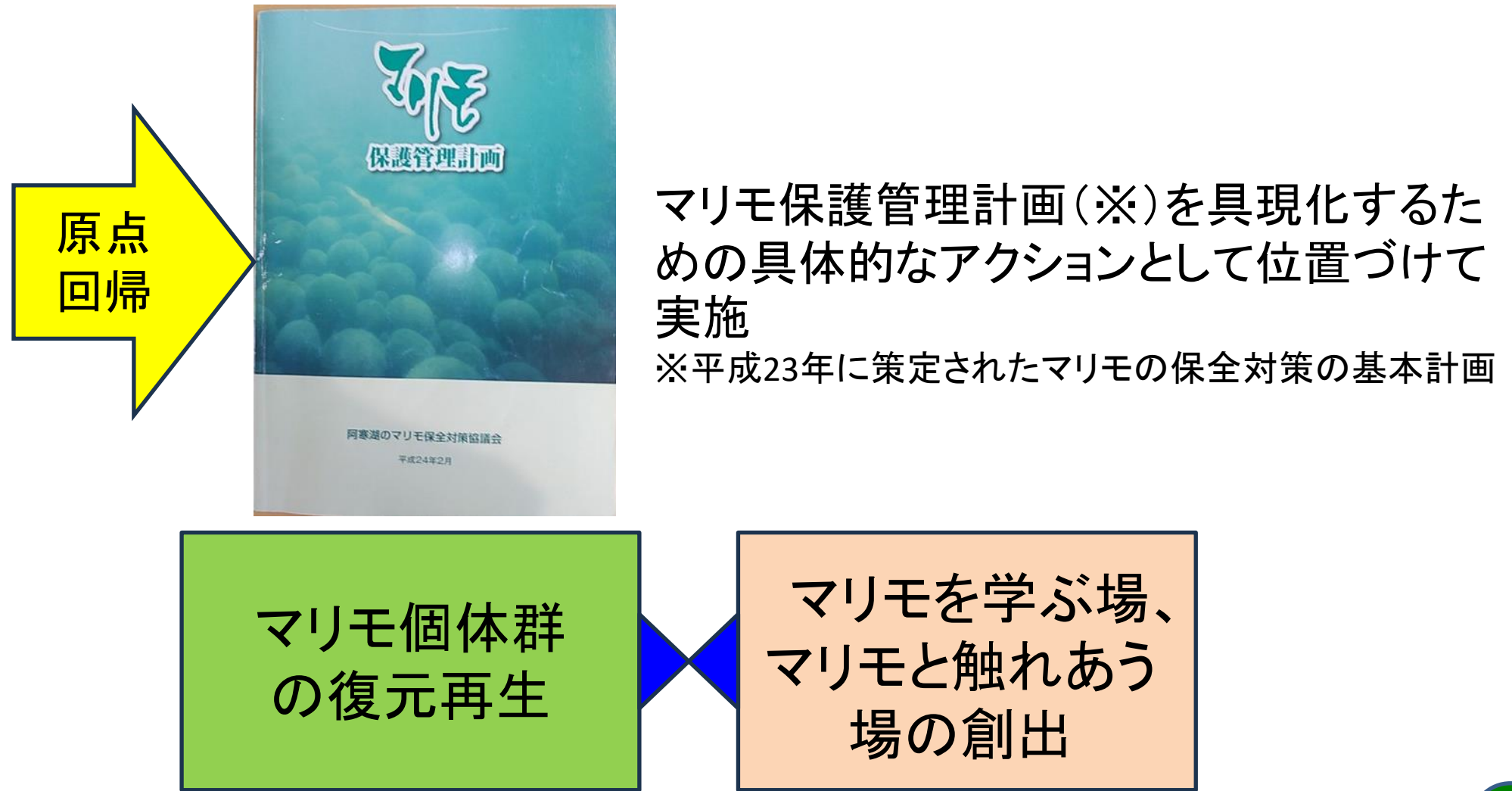
令和5年度～

- シュリコマベツ湾での取組
 - > マリモ育成試験
 - > 学習プログラム実施の将来像検討(仕組みづくり、必要な施設、テーマ等の検討)





2 (2) 取組概要



2 (3) 阿寒湖のマリモ保護管理全体の中の位置づけ

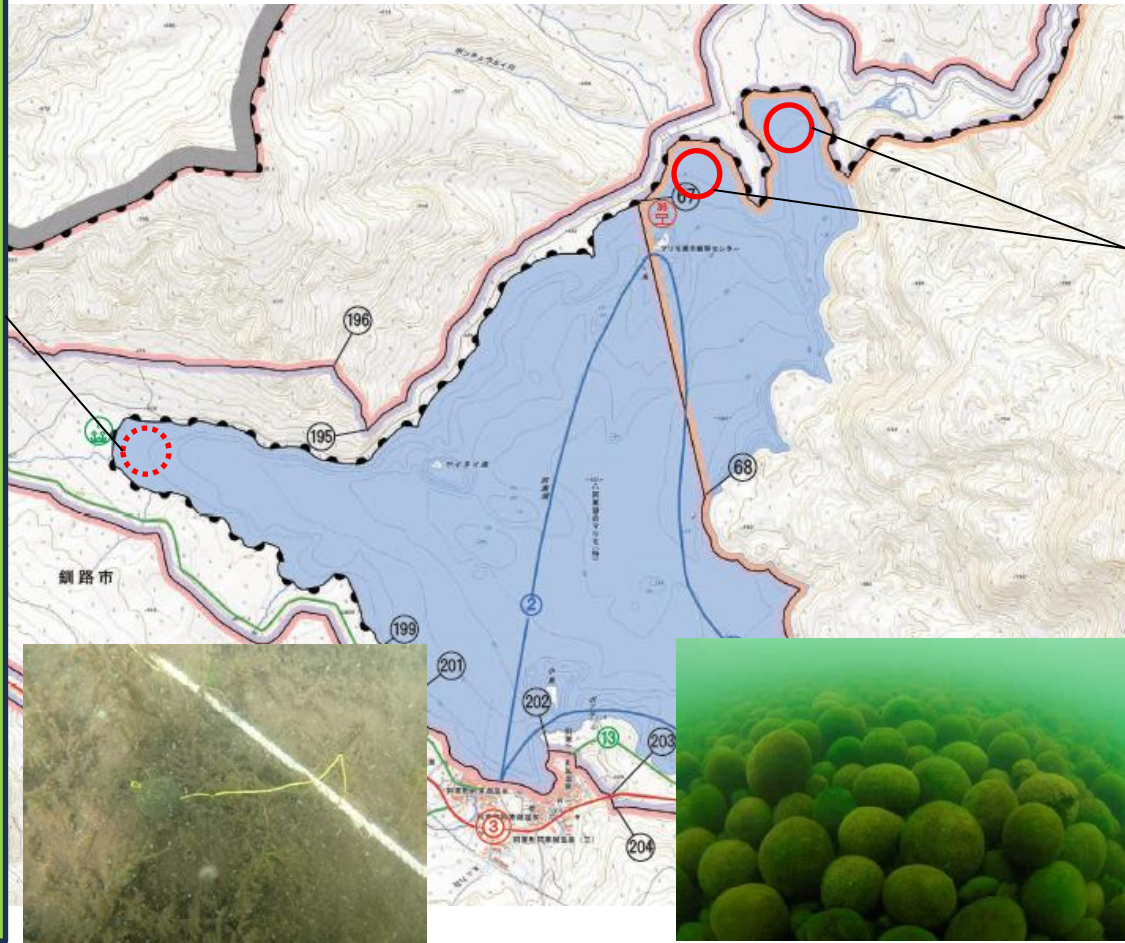
シュリコマベツ湾

● 球状マリモが初めて確認された場所、人間活動によりマリモが消滅した場所

● 環境改善してマリモの復元再生を行う場所

● 多くの人がマリモに触れ、マリモについて知ることができる場所、マリモ保護への理解を深める場所

● 復元再生で得た知見をチュウルイ湾・キネタンペ湾での保護にフィードバック



チュウルイ湾 キネタンペ湾

● 大型のマリモが生育する世界唯一の場所

● マリモを厳正に保護し、後世に引継ぐべき場所

● マリモやマリモの生育環境の調査・研究で得られた知見を環境教育やシュリコマベツ湾での取組に提供



2 (4) 目標



■シュリコマベツ湾を、かつてのように球状マリモ群生地が見られる場所に戻す。

■シュリコマベツ湾-阿寒湖温泉を、「マリモ」や阿寒湖の「自然」、「歴史」、「人と自然の関わり」を学ぶことができる場所にする。

→阿寒湖温泉を、

「マリモ(阿寒湖)を再生させた場所」

「マリモ(阿寒湖)を通じて環境(人×自然)を考える場所」

として認知させ、「環境観光の地」としての価値向上に貢献する。





3 令和5年度の取組

マリモ生育地の復元再生

- ①疑似マリモでの育成試験(保護増殖技術)
- ②水草刈取後の状況把握(生育環境管理)
- ③漂着マリモ調査(分散供給状況把握)



令和5年度マリモ育成試験の実施計画図

マリモを学ぶ場・触れあう場の将来像の検討

- ①将来像(目指す姿)の検討
 - >シュリコマベツ湾～温泉街の関係
ツアー実施場所と起点**それぞれの機能検討**
 - >ツアーの**テーマ**設定
何を伝えるか
 - >ツアーの**ターゲット**
誰に伝えるか
 - >ツアー利用のための立入の仕組
自由立入可ではない区域への**立入仕組検討**
立入方法(起点～ツアー実施場所)
 - >ツアー実施のための施設整備
必要な施設の整備検討
 - >ツアー実施のための**ルール**
 - >ツアー実施全体の**運営**
- etc.



3 令和5年度の取組

1. 「将来像」とは何か

シュリコマベツ湾でマリモ生育地の復元再生を行うとともに、「マリモを学び、触れあう場」として活用を行うことにより、マリモの保護や自然環境・生物多様性の保全への理解促進、持続可能な地域づくり等に資するため、**シュリコマベツ湾をどのような場にしたいのか具体的な姿を示すもの。**

2. なぜ「将来像」が必要か

マリモ保護管理計画では、マリモ消滅水域であるシュリコマベツ湾は、マリモの生育地として復元再生し、「マリモを学び、触れあう場」として活用していく構想が示されているが、**具体的にどのような姿なのかは明確にされていない。そのため、地域で一体となって目指すべき姿を共有するとともに、実現に向けたステップ及び実現に向けた諸課題を具体化することが必要と考えている。**

3. 「将来像」を定め「マリモを学び、触れあう場」を具現化することにより目指したいもの

- i) マリモとその保護についての理解
- ii) 阿寒湖の自然環境・生物多様性とその保全についての理解
- iii) 阿寒湖の人と自然のかかわりについての学び
- iv) 持続可能な地域・社会についての学び

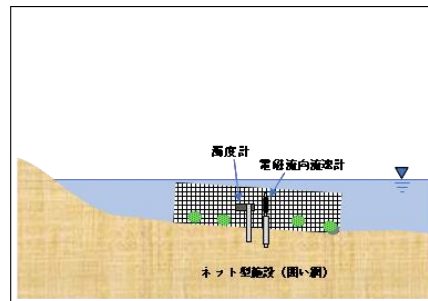
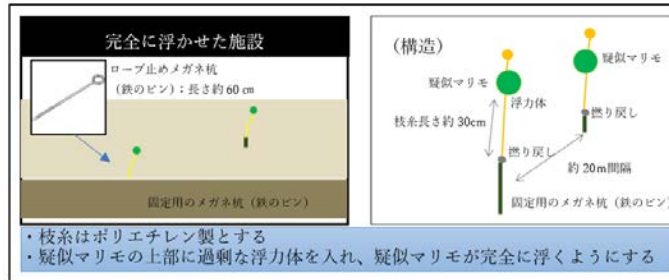


3 令和5年度の取組

マリモ生育地の復元再生

①疑似マリモでの育成試験

- ・湖岸沿いに2種類(係留型・ネット型)の施設を複数設置
- ・係留型は体積増加率高く、ネット型は天然マリモに近い条件
- ・令和5年度は係留型で越冬試験も実施



②水草刈取後の状況把握

- ・マリモの回転に必要な風波を減衰させる、過剰に繁茂した水草の刈取を令和3年度に試験的に実施
- ・刈取後の繁茂状況の継続確認

③漂着マリモ調査

- ・シュリコマベツ湾内におけるマリモの存在適所を検討



3 令和5年度の取組

マリモを学ぶ場・触れあう場の将来像の検討

- ・意見交換会を開催
- ・ワークショップ形式で、6~7名の2つのグループに分かれて意見交換
- ・参加者からは、実際にツアーを開催すると想定した場合の懸念事項や今後必要なインフラを考えていくことの必要性が指摘された。題材としては、シュリコマベツ湾だけでなく、阿寒湖全体の環境を知ってもらうことの必要性や、実際に本物のマリモに触れることが必要だという意見もあった。



背景：地理院地図に加工 出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>)



ステップアッププログラム2025の目標

資料2-1

目標	目標値	2019年度 (令和元)	2020年度 (令和2)	2021年度 (令和3)	2022年度 (令和4)
目標1 関係市町訪日外国人宿泊客延べ数	310,000	170,590	1,920	2,092	47,655
目標2 関係市町（釧路市は旧阿寒町のみ）宿泊客延べ数	800,000	793,774	489,084	510,186	688,519
目標3 国内旅行者リピーター率（10回以上）	25%	19.20%	—	—	10.10%
目標4 連泊利用者数	150,000	77,659	62,059	62,298	66,498
目標5 訪日外国人国別割合（欧米豪比率）	10%	7.64%	25.73%	16.11%	9.75%
目標6 季節繁閑差（最多月宿泊数／最小月宿泊数）	200%以下	248.8%	662.5%	466.4%	269.1%
目標7 阿寒摩周国立公園内外の主要施設の利用実績 (対2019年度比)	増加	—	減少	減少	減少

- ・ステップアッププログラムでは、2020（令和2）年に阿寒摩周国立公園関係市町訪日外国人延べ宿泊者数を31万人とすることを目標としていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて目標達成ができなかったことから、引き続き目標値を維持しつつ2025（令和7）年までのできるだけ早期に目標を達成することとする。（目標1）
- ・訪日外国人の需要回復に時間がかかることを踏まえると、地域の観光産業を維持していくためには国内需要をしっかりと維持していくことも重要であることから、国内旅行者についても2019（令和元）年度の水準を引き続き維持しつつ、近隣地域からのリピーターを増加させていく。（目標2、3）
- ・滞在日数が増えることで地域内での消費額も増加すると考えられるため、阿寒摩周国立公園での連泊での利用者数を増やしていく。（目標4）
- ・予測不可能なリスクに対応し、安定的な観光地として将来にわたって持続していくため、様々な国・地域からバランス良く集客を図るとともに、繁閑差を解消していく。（目標5、6）
- ・阿寒摩周国立公園の周辺地域への波及効果を高めていくことも重要であることから、周辺地域の主要施設の利用者数等を増加させていく。（目標7）

（阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025より抜粋）

阿寒摩周国立公園内外主要施設などの利用実績（単位：人）

資料2-1（別紙）

施設名	市 町	種 別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備 考
(国立公園内主要施設)							
阿寒湖畔エコミュージアムセンター	釧路市	利用者数	54,729	23,499	35,179	47,326	
阿寒湖アイヌシアター「イコロ」	釧路市	利用者数	54,664	17,969	13,829	40,201	
マリモ展示観察センター	釧路市	利用者数	89,954	32,551	31,209	45,352	
川湯ビジターセンター	弟子屈町	利用者数	17,574	11,393	12,640	15,386	
摩周湖レストハウス	弟子屈町	利用者数	643,854	256,685	183,197	244,858	駐車台数を基に算出
硫黄山レストハウス	弟子屈町	利用者数	220,736	80,226	91,998	110,289	駐車台数を基に算出
ハイランド小清水	小清水町	利用者数	31,974	29,583	36,703	30,456	
(道の駅)							
道の駅 阿寒丹頂の里	釧路市	利用者数	412,825	248,479	298,789	299,496	
道の駅 摩周温泉	弟子屈町	利用者数	292,491	201,798	199,156	255,970	交流館のみ
道の駅 しらぬか恋問	白糠町	利用者数	576,814	430,399	479,461	485,413	
道の駅 あしよろ銀河ホール21	足寄町	利用者数	247,144	155,031	154,179	186,029	
道の駅 ぐるっとパノラマ美幌峠	美幌町	利用者数	550,982	389,510	461,979	883,038	
道の駅 あいおい	津別町	利用者数	147,963	127,267	182,183	288,082	
道の駅 パパスランドさつつる	清里町	利用者数	208,690	187,963	167,637	193,952	
道の駅 葉菜野花小清水	小清水町	利用者数	311,299	243,480	227,197	266,911	トイレ、レストラン、土産店の合計
道の駅 メルヘンの丘めまんべつ	大空町	利用者数	435,945	344,886	351,181	419,520	ショップ、トイレの合計
道の駅 ノンキーランドひがしもこと	大空町	利用者数	327,870	238,198	258,093	281,132	レストラン、ショップ、ホテル、トイレの合計

施設名	市 町	種 別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備 考
(公設キャンプ場)							
阿寒湖畔キャンプ場	釧路市	宿泊者数	3,490	22	1,518	1,955	
オンネトー国設野営場	足寄町	宿泊者数	1,889	2,232	1,461	1,829	
和琴野営場 (RECAMP和琴)	弟子屈町	宿泊者数	1,635	2,975	3,503	2,239	
砂湯野営場 (RECAMP砂湯)	弟子屈町	宿泊者数	5,535	8,067	5,865	4,595	
桜ヶ丘キャンプ場 (RECAMP摩周)	弟子屈町	宿泊者数	1,851	3,937	4,408	2,680	
ハイランド小清水キャンプ場	小清水町	宿泊者数	249	380	299	337	
虹別オートキャンプ場	標茶町	宿泊者数	6,204	6,164	5,830	6,285	
女満別湖畔公園キャンプ場	大空町	宿泊者数	3,282	3,677	3,852	2,874	
芝桜公園キャンプ場	大空町	宿泊者数	1,206	583	1,416	1,425	
(その他の主要観光施設)							
ノンの森ネイチャーセンター	津別町	入込数	15,237	14,424	20,704	22,688	
多和平	標茶町	利用者数	18,612	18,111	23,195	21,495	
開陽台	中標津町	利用者数	113,696	99,176	72,743	91,961	
津別峠展望施設	津別町	入込数	93,215	18,380	48,065	49,355	
合 計			4,891,609	3,197,045	3,377,469	4,303,129	
対2019年度比			-	減少	減少	減少	
施設名	市 町	種 別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備 考
清里オートキャンプ場 (策定時未載)	清里町	宿泊者数	2,462	2,337	2,073	2,731	
UPI オンネトー (策定時開業前)	足寄町	利用者数	-	-	-	8,853	2022年開業



ステップアッププログラム2025の進捗状況

2023.11.08時点

各団体の主な取り組み

■ BA-6 アドベンチャートラベル推進

令和3年9月20日～24日、ATWS2021北海道バーチャル開催
令和5年9月11日～15日、ATWS2023北海道リアル開催
 (北海道運輸局、北海道経済産業局、北海道)
 ・ATツアー磨き上げ(北海道運輸局、北海道)・ガイド研修(北海道)
 ・AT事業者広域連携・販路拡大支援、AT旅行会社(北海道運輸局)

■ NP-3 脱炭素化

・ゼロカーボンパーク登録
主な国立公園利用施設において2025年までにRE100の実現を目指す
 (環境省、釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町)

■ AK-2、AK-3、AK-7 阿寒湖温泉

・ロストカムイ、カムイルミナ実施
 ・アイヌアートギャラリー本格オープン(2021年6月)
 ・チュウルイ島ツアー実施(2021年10月から)
 ・E-BIKE～旅行商品の開発
 (阿寒観光協会まちづくり推進機構)

■カムイルミナ
 生態系影響調査実施(環境省)

■ AK-8
阿寒湖まりむ館(観光案内所)
 ・外国語対応スタッフ配置(釧路市)

■ BA-6
アドベンチャートラベルの推進
 ・道東のAT向け自然ガイドブック「Wild Hokkaido」発行(環境省)

■ ON-1 オンネトー
・新休憩舎【UPIオンネトー】2022年6月オープン(足寄町)



■ KU-2

屈斜路カルデラ外輪山トレイル
 (美幌峠・津別峠・藻琴山)
 ・コース整備、モニターツアー実施



(美幌地区3町広域観光協議会)

■ BA-3 3空港を繋ぐトレイル推進

・非動力ATツアー対応に向けたガイドライン作成・セミナー開催(運輸局)

■ AK-4 阿寒湖畔EMC

・2022年1月展示改修完了(環境省)

■ KA-5 摩周・屈斜路トレイル

・新規ルート検証、トレイル道標設置(弟子屈町)

■ KA-6 持続可能な観光地域づくり

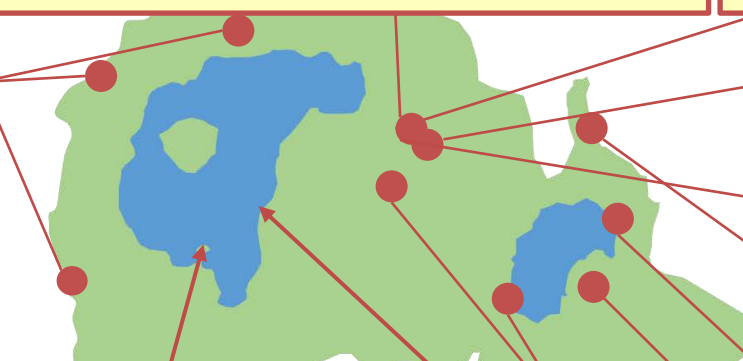
・観光振興計画策定
 ・日本「持続可能な観光」地域協議会への参画(弟子屈町)

■ KA-7 川湯温泉川の魅力向上

・遊歩道の延長・整備
 ・川床清掃、ライトアップ等(弟子屈町、川湯地域運営協会)

■ KA-7 川湯の森ナイトミュージアム

・硫黄山ライトアップ、図鑑の森、森のマルシェ開催
 (環境省、摩周湖観光協会)



■ KU-1

屈斜路湖動力船規制
 2021年10月開始(環境省)



■ AK-5 滝口自然探勝路

・2022年6月全区間開通(環境省)



■ KU-1

屈斜路湖の新たな活用
 ・屈斜路湖、釧路川源流域利用実態調査実施(弟子屈町)

■ KA-4 (弟子屈町振興公社)
官民連携による誘客促進
 ※REVIC連携協定事業
 ・2022年7月「摩周湖カムイテラス」オープン
 ・**2023年9月「硫黄山MOKMOKベース」オープン**

■ KA-3 町民駐車場無料解放
 ・2022年9月から2025年まで摩周湖・硫黄山(自然公園財団)

■ KA-1 川湯温泉街(廃屋撤去)

・1棟目(華の湯) 2019年10月～2020年9月 撤去完了
 ・2棟目(川湯プリンス) 2021年8月～2022年3月 撤去完了
 ・**1・2棟目廃屋撤去跡地に事業者公募 星野リゾート「界テシカガ」進出 2026年開業予定**
 ・**3棟目(御園) 2023年7月～撤去中**
 ・**4棟目(川湯グランド) 2023年9月～撤去中**
 ・**川湯温泉街まちづくりマスタープラン(案)の策定**
 (環境省、弟子屈町)

■ KA-1

川湯温泉街DIY
 (摩周湖観光協会)



■ KA-2

川湯EMCインバウンド対応強化
 2022年4月ビジターセンターに名称変更(環境省)

■ MA-3 裏摩周-神の子池トレイル、プログラム開発

・ルート調査、看板整備 他
 (きよさと観光協会、清里町)

■ MA-1 裏摩周園地

2021年7月裏摩周展望台リニューアル(環境省)



■ MA-5 摩周湖外輪山

・西別岳登山道再整備設計完了(環境省)
 ・裏摩周展望台～西別岳登山道分岐想定ルート刈払(清里町)

■ BA-4 阿寒摩周国立公園インナーブランディングの推進
 ・「自然の郷ものがたり」**第3号発行**
 ～旧阿寒町、弟子屈町の全戸に配布(環境省)

取組名称	阿寒湖温泉街のまちなみ景観改善及び快適な利用空間の整備			番号	AK- 1
取組主体	釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構、阿寒湖温泉地区景観協議会、環境省			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<p>それぞれの目標について、達成状況を入力 凡例）達成、延期、断念、見直、未定 など</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年に阿寒湖温泉の景観改善の方針を検討し、それを踏まえた阿寒湖畔集団施設地区整備基本計画を策定する 中央広場については令和5年までに整備する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 阿寒湖アイヌコタンの隣接地にアイヌ文化伝承・技術継承の活動拠点となる（仮称）阿寒アイヌクラフトセンターを整備していく。（釧路市） 阿寒観光協会が取り組むまちなみ景観改善に対して、観光振興臨時基金を活用した支援を実施していく。（釧路市） フォレストガーデンを入口としてアイヌコタン及び湖畔までの導線を中心に建物外観の修景や園地整備等により阿寒湖温泉街の景観改善を進める。（阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省） 温泉街の景観改善（サイン、看板、ベンチ等の再塗装）を実施する。（阿寒湖温泉地区景観協議会） <p><具体的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との合意形成の下、阿寒地域の利用拠点としてふさわしい阿寒湖温泉街の景観改善方策等を検討する（阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省） 上記の検討を踏まえて、阿寒湖温泉街の外観修景等の景観改善を進める（阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省） 取得した旧阿寒湖温泉除雪ステーションを、アイヌ文化伝承・技術継承の活動拠点として整備を進める。（釧路市） フォレストガーデンからアイヌコタンまでの良好な景観の導線を整備する（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 阿寒湖温泉街の景観改善の取組と連携し、阿寒湖畔集団施設地区全体の再整備計画を策定し、阿寒湖畔へのメインのアクセスポイントとなる中央広場の整備を行う（環境省、阿寒観光協会まちづくり推進機構） 	進捗状況	<p>それぞれの取組内容について、取組状況を入力 凡例）達成、延期、断念、見直、未定 など</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央広場については引き続き予定地周辺の地権者と調整しつつ、整備の検討を行う。 <p>進捗状況には、提出いただいた取組個票の令和4、5年度を中心に記載しております。</p>
取組名称	阿寒湖の自然を体験的に学ぶプログラムの開発			番号	AK- 2
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省、前田一步園財団			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> チュウレイ島ガイドツアー（モニターツアー）を令和3年度に実施する シュリコマベツ湾における保護活動のツアープログラム化の可能性を検討し、令和4年度に方向性を見出す 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> アドベンチャートラベルの旅行者やワーケーション滞在者などのニーズに合わせて、阿寒湖の自然及び最大の特徴であるマリモの生態について体験的に学ぶプログラムを開発し、世界で唯一の球状マリモの生育地である阿寒湖の特殊性や自然の豊かさを国内外に発信する <p><具体的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> チュウレイ島ガイドツアー、シュリコマベツ湾阿寒湖の自然やマリモを体験的に学ぶプログラムを開発する（阿寒観光協会まちづくり推進機構） シュリコマベツ湾の生育地再生について調査や手法開発を行い、上記のプログラムに反映する（環境省） プログラムの開発や、その在り方に関して森林利活用や保全などの観点から提言やサポートを行う。（前田一步園財団） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度にチュウレイ島ガイドツアーの実施 令和5年度は人員不足により未実施
取組名称	アイヌ文化のブランディングとプロモーションの実施			番号	AK- 3
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構、阿寒アイヌ工芸協同組合			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度までに、シアターイコロの入場者を新型コロナ以前の55,000名に回復することを目指す アイヌアートギャラリーは令和5年度来場者20,000名を目指す 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年以降は5月～11月に“カムイルミナ”を開催する。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） アイヌ文化を活用したツアープログラムのブラッシュアップと認知度の向上（阿寒観光協会まちづくり推進機構） “ロストカムイ”と“カムイルミナ”のプロモーションを実施（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 阿寒湖アイヌシアターイコロの公演演目である「イオマンテの火まつり」と「アイヌ古式舞踊」の更なる磨き上げを行う。（阿寒アイヌ工芸協同組合） 昨年度整備した「アイヌアートギャラリー」を令和3年6月より本格的にオープンする。（阿寒アイヌ工芸協同組合） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度にイコロの新演目の制作を完了予定 シアターイコロの入場者数は新型コロナ以前の水準までは未回復
取組名称	阿寒湖畔EMCのインバウンド対応機能強化			番号	AK- 4
取組主体	環境省のみ			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年までにセンター内部の改修を、令和4年までにセンター前広場等の改修を完了する 令和4年までに広域的情報発信機能強化の方針を検討する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 阿寒湖畔EMCについて、アドベンチャートラベル（AT）を中心としたインバウンドへの対応強化を進めるとともに、国立公園の拠点施設として持続可能な観光のモデルとなる取組を率先して進める。 ひがし北海道の中央に位置する阿寒摩周国立公園の特徴を活かした広域的な情報発信機能の強化について検討する。 <p><具体的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 「エコミュージアムセンター」の名称を海外でも一般的な「ビジターセンター」に名称変更するとともに、施設の認知度や誘導を促進するため、エントランスを改修する。 地域で取り組むマイボトル推進などの持続可能な観光推進の取組に協力するため、給水スポットを設置する。 知床国立公園、釧路湿原国立公園等も含めた広域的な情報発信について、必要な機能等について検討し、機能強化を図る。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度にEMC前広場に関する設計を実施 令和6年度にEMC前広場の再整備施工予定

取組名称	阿寒湖畔沿いの歩道の整備及び利活用			番号	AK-5
取組主体	環境省、釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年までに阿寒湖畔滝口線道路の整備を完了する 令和4年までに「森のこみち」の整備を完了する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 阿寒湖温泉と雄阿寒岳登山口である滝口を結ぶ歩道等（森のこみち含む）を整備し、阿寒湖畔の新たな活用を図るとともに、阿寒摩周トレイルネットワーク構想の実現に寄与する。（環境省） 滝口線の維持管理体制を構築、供用開始。（環境省、釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構） 歩道の整備と合わせ、温泉街と滝口をつなぐ連絡船の運航やまりむ号（無料送迎用マイクロバス）の運行など、湖畔の新たな活用を進める。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 阿寒湖畔滝口線道路及び森のこみちの整備は完了 連絡船の運航については準備段階
取組名称	阿寒湖フォレストガーデン整備			番号	AK-6
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路市			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度までに桜並木等植栽を完了する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> フォレストガーデンの植栽計画の実施並びに駐車場の営業機能向上を検討する（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 阿寒観光協会が取組むフォレストガーデンの整備に対して、観光振興臨時基金を活用した支援を実施していく。（釧路市） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 桜並木等の植栽は完了
取組名称	阿寒湖畔スキー場の利活用最大化			番号	AK-7
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> スキー場を活用したATプログラムを令和4年度に商品化する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 競技スキーの拠点としての受け入れ体制を検討する。（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> eスノーバイクの活用を検討
取組名称	阿寒湖まりむ館の観光案内所における外国人利用者への観光情報提供サービスの充実			番号	AK-8
取組主体	釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 体制を継続 デジタルサイネージの方向性決定し、令和4年度以降設置予定 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 外国人利用者への観光情報提供サービスの体制を継続する。（釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構） 外国人向けパンフレットを充実させる（阿寒観光協会まちづくり推進機構） デジタルサイネージ（観光案内ボード）の設置（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 外国人向けパンフレット（「カムイルミナ」、 「阿寒湖温泉イランカラブテ」各5,000部）
取組名称	阿寒湖と周辺湖沼群の世界自然遺産認定に向けた活動の推進			番号	AK-9
取組主体	釧路市、釧路国際ウェットランドセンター阿寒湖沼群マリモ研究室			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年を目途に世界自然遺産登録の学術的根拠となり得る各種研究成果を発表（知見の蓄積） 継続して環境省および関係団体、市民へ知見の提供・PR活動の実施 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産の国内候補地選定に向け、これまでに得られた研究成果を論文として発表するとともに、新たな知見を収集すべく研究グループの立ち上げを目指す。（釧路市） ◆阿寒地域の自然環境の顕著で普遍的な価値を示す。（阿寒湖沼群マリモ研究室） <ul style="list-style-type: none"> 【阿寒カルデラ湖沼群】 <ul style="list-style-type: none"> 様々な遷移段階にある湖沼生態系の標本庫であることの証明 【噴気帯および温泉群】 <ul style="list-style-type: none"> 中性・酸性・塩基性の順に変化する火山生態系の標本庫であることの証明 【マリモ】 <ul style="list-style-type: none"> 阿寒の生態系と生物多様性を象徴する生物であることの証明 球化する生物の典型例であることの証明 世界で最後に残された貴重な生育地であることの証明 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 国際的な学術誌に阿寒カルデラ湖沼群に関する論文を発表した
取組名称	阿寒湖温泉街清掃および駐車場の修繕			番号	AK-10
取組主体	自然公園財団阿寒湖支部			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 阿寒湖温泉街清掃（5月1回、7月1回、8月2回、9月1回、10月1回）計6回 令和4年中に駐車場料金所および柵の塗装を完了する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 当財団は阿寒湖の園地や遊歩道を中心に美化清掃活動を行っていますが、阿寒湖温泉街を中心に清掃を行ってはおらず、作業時に通った時に清掃する程度でした。ただ、阿寒湖温泉に宿泊された利用者が必ず通る場所ですので、ここを繁忙期に重点的に清掃し、阿寒摩周国立公園を美しく感じて頂きたいです。また、SUP2020の継続して取り組む既存施設である駐車場料金所および柵について塗装をし直し、また破損部分を治すことで、美しい国立公園を感じて頂ければと思います。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 阿寒湖温泉街清掃（9月22日、10月7日、19日、22日）計4回実施 料金所及び柵塗装未実施 ただし、10月22日から1P料金精算機設置工事及び運用開始
取組名称	阿寒湖におけるAT（アドベンチャーツーリズム）の推進			番号	AK-11
取組主体	阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路市			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> ATWS2021北海道、エクスカッションの開催、ATWSをフックに令和4年度にBotobを主体とするインバウンドマーケットへ参入する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ATWS実行委員会として各種の取組を実施する。（釧路市） 顧客ニーズなどへの対応のため、ツアーコンテンツの磨き上げ、プロモーション等や環境整備に取り組むDMO等への支援等を継続実施。（釧路市） ATWS受け入れプログラムの中でのガイドの養成促進（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 富裕層をターゲットとした英語ガイド育成や多数のEバイク確保などのAT受け入れ整備（阿寒観光協会まちづくり推進機構） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ATWS2023北海道に向けての受入んきょう整備

取組名称	自然体験拠点施設等の魅力向上			番号	AK-12
取組主体	釧路市			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・再整備方針の決定	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 国設阿寒湖畔スキー場は、利用者の安全確保と効率的な経営環境整備のため、老朽化した人工降雪機等の計画的な整備を実施する。 また、コース拡幅等の魅力向上方策について検討を進める。 白湯山展望台は、令和6年度以降の計画的な整備に向けて、令和5年度までに利用者目線での再整備方針の検討を実施する。 マリモ展示観察センターは、令和6年度以降の計画的な整備に向けて、令和5年度までに展示内容等のリニューアルの検討を進める。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 白湯山展望台木道の修繕（手摺等） スキー場の整備（索道設備等）
取組名称	オンネトー国設野営場休憩舎整備			番号	ON-1
取組主体	足寄町、NPO法人あしよろ観光協会、環境省、林野庁（十勝東部森林管理署）			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年までに休憩舎の建築を完了する 令和4年までに運営主体を決定し、供用を開始する 令和7年までに休憩舎年間の来場者数を4,000人とする（令和4年野営場休憩舎利用者8,853人） 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> オンネトー国設野営場に当地区の活動拠点となる休憩舎を整備し、国内外からの利用者の利便性を高め、地域での観光利用や長期滞在を促進するため、トレイルやフィールド情報の発信、体験型ツアープログラムの受け入れやイベントの開催、NPO法人あしよろ観光協会及び民間事業者と連携しながら、適切な利用を促進するための仕組みを構築する。 <具体的な取り組み> 雌阿寒岳オンネトー地区の適切な利用を推進するための活動拠点としての施設整備完了。（足寄町） アクティビティ利用者をはじめ、地域のガイドなどの交流拠点となるような機能向上を図る。 同地区利用におけるアメニティー及びインフォメーションの提供開始。（あしよろ観光協会・民間事業者） 軽食や活動に必要な道具の販売などを通して利用者がくつろげる環境を提供し、ロングトレイルの西の発着点として、観光情報をはじめ、トレイルや四季折々のフィールド情報について、利用者目線での提供を行う。 ツアープログラムの開発及び実践（足寄町・あしよろ観光協会・民間事業者） ツアープログラムの誘致や、イベントやワークショップの開催を通じ、新たな利用者の誘致と適切な利用方法の提案を行う。アドベンチャーツーリズムを計画中。 自然公園等整備事業交付金による支援を実施する。（環境省） 新休憩舎用地の賃借等により適切な利用を図る（十勝東部森林管理署） 	進捗状況	・休憩舎2年目運営（運営主体あしよろ観光協会、施設管理者UPI）
取組名称	オンネトー湯の滝園地の再整備			番号	ON-2
取組主体	北海道（十勝総合振興局）、環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和4年までに、オンネトー湯の滝園地休憩所の基本解説パネル更新、手すり再整備を実施	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> オンネトー湯の滝園地の休憩所壁面に掲示している基本解説文パネル（7枚）を更新予定。古くなった解説文の情報を更新し、多言語化を図るとともに、パネルには阿寒摩周国立公園オンネトー園地の特性を考慮したデザインを採用し、阿寒摩周国立公園全体のブランド力向上を図る。あわせて、施設の安全性を確保するため、休憩所の手すりの再整備を予定。（北海道十勝総合振興局） 再整備におけるパネルデザイン等の具体的内容は、環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会と協議する。（北海道十勝総合振興局、環境省、足寄町、オンネトー魅力創造委員会） 自然環境整備交付金による支援を実施（環境省） 	進捗状況	・令和5年度実施予定
取組名称	オンネトー・雌阿寒岳の維持管理体制の構築			番号	ON-3
取組主体	環境省、林野庁（十勝東部森林管理署、根釧西部森林管理署）、北海道（十勝総合振興局、釧路総合振興局）、足寄町、釧路市			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和5年までに雌阿寒岳登山道の事業執行化および日常の管理体制について関係機関で合意形成し、令和6年からの事業執行を目指す	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> オンネトーや雌阿寒岳登山道の整備・維持管理体制の構築に向けて、関係機関等における協働管理を推進し、質の高い利用環境の提供を行う。 雌阿寒岳の公園事業執行化および日常の維持管理体制について、関係行政機関と調整し方向性を検討する。（環境省、林野庁、北海道、足寄町、釧路市） 	進捗状況	・令和6年度登山道調査（目標達成年の見直し必要）

取組名称	川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化			番号	KA- 1
取組主体	弟子屈町、環境省、摩周湖観光協会、川湯地域運営協会			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年までに廃屋1棟を撤去し、民間投資を含めた跡地の活用方法を決定する 令和6年までにさらに廃屋2棟を撤去し、民間投資による跡地の再整備の方針を決定する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 川湯温泉の再生に向け、川湯の温泉街及び川湯園地を一体的に検討したマスタープランを策定する マスタープランに基づき廃屋となったホテルの撤去及び空き家の活用等を積極的に進め、新たな民間投資を呼び込むことで、廃屋が集中したエリアを中心に川湯温泉の面的再生を図る <具体的な取り組み> 廃屋の所有者等と権利関係を整理し、必要に応じて取得するなど廃屋の撤去が可能な条件を整えた上で、交付金等を活用して撤去を進める（弟子屈町） 直轄事業（旧川湯プリンスホテル）及び交付金により廃屋撤去の実施・支援を行う（環境省） マスタープランに基づいた川湯園地の整備（岩盤と温泉川のシンボル化、ホテル川湯パーク跡地の活用、夜の森の散策、温泉配管の整理等）を行う（環境省） 川湯温泉の特徴的な泉質、周辺の森の散策、国立公園でのアクティビティなどを楽しみながら、長期に滞在して心身をリフレッシュする新たな湯治スタイル（ワーケーション含む温泉殺菌効果検証、飲泉、アカエゾマツ蒸留体験等）を推進（摩周湖観光協会） 外壁塗装等の景観改善を、手作業で行える範囲で実施（摩周湖観光協会、川湯地域運営協会） ミソノ川、温泉川の清掃を実施（川湯地域運営協会） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 川湯温泉再整備に向けたマスタープランの策定 土地の権利関係の整理 廃屋解体に係る設計と工事の実施
取組名称	川湯EMC（現川湯VC）のインバウンド対応機能強化			番号	KA- 2
取組主体	環境省のみ			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度までにツアーデスクの改修及び営業開始をする 令和5年度までにセンター内の展示や設備等の改修を完了する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 川湯EMCについて、アドベンチャートラベル（AT）を中心としたインバウンドへの対応強化を進めるとともに、国立公園の拠点施設として持続可能な観光のモデルとなる取組を率先して進める。 ひがし北海道の中央に位置する阿寒摩周国立公園の特徴を活かした広域的な情報発信機能の強化について検討する。 <具体的な取り組み> 「エコミュージアムセンター」の名称を海外でも一般的な「ビジターセンター」に名称変更するとともに、既存の標識類を更新する。 国立公園の利用情報の提供やツアー予約等に対応するため、ツアーデスク等を整備する。 アドベンチャートラベル対応するため、センター内の展示や設備等の改修を実施する。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> マスタープランに基づくアウトドアンターとしての活用の可能性を検討
取組名称	利用料等の公園管理への活用及び町民への駐車場無料開放			番号	KA- 3
取組主体	自然公園財団川湯支部			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 摩周湖・硫黄山駐車場を令和4年9月1日～令和7年まで、地元限定とした駐車場無料開放を実施し、町民が摩周湖や硫黄山の自然や景観に触れ、地元の良さを再実感してもらえるようにする（駐車場無料開放：5月・8月除く） 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和3～5年まで継続して地域住民（弟子屈町民）へ摩周湖と硫黄山の魅力を再発見して頂けるよう、駐車場無料開放を実施していきたい 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 6月1日～10月31日（8月を除く）、駐車場無料開放を実施
取組名称	摩周湖第一展望台及び硫黄山レストハウスのリニューアル			番号	KA- 4
取組主体	弟子屈町、北海道、環境省、自然公園財団川湯支部			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年中に硫黄山、令和4年中に摩周湖第一展望台のレストハウスのリニューアルを実施する 令和7年までに硫黄山及び摩周湖レストハウスの経営改善を完了し、継続的な利益体質を確立する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> REVIC、弟子屈町、北海道、環境省等により連携協定を締結し、協定に基づき、観光遺産産業化ファンドからの出資等により、DMOの司令塔となるDMC機能を有した組織を構築する。 現在弟子屈振興公社が運営する摩周湖第一展望台及び硫黄山のレストハウスの経営改善を図り、DMC機能を持続的に維持するための自主財源を確保する。 上記の経営改善とあわせて周辺の公共施設の再整備（ユニバーサルデザイン対応含む）、レストハウスへの展示機能の追加、駐車場管理のあり方などを検討し、官民連携により摩周湖、硫黄山を一過性の立ち寄りポイントではなく、滞在型の利用拠点としてのリニューアル、エリアのシンボルスポットとしての誘客促進効果を高める。 摩周、硫黄山のスポット観光のみにとどまらず、そこを起点とし、地域細部に流動促進ができるような、プログラム構築、交通機関連携などにより、地域・広域エリア内の回遊促進を推進させる仕組みを検討する。 硫黄山の地熱を活用し、新たな体験コンテンツ（蒸し野菜や温泉卵等）を提供できる仕組みを検討する。 摩周湖については、ロングトレイル構想の取り組みと連携して、宿泊機能の必要性について検討する。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 硫黄山レストハウスリニューアル

取組名称	摩周・屈斜路トレイル（MK T）ルートの拡充と利用推進			番号	KA- 5
取組主体	弟子屈町、環境省、摩周湖観光協会、地域事業者、林野庁（根釧西部森林管理署）、北海道（釧路総合振興局）			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年までに延伸ルートをオープンする 令和7年までに摩周・屈斜路トレイルを多国籍の旅行者が歩いている状態にする 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年にオープンした摩周・屈斜路トレイル（MK T）を基軸とし、延伸ルートおよびMK Tに接続するショートコースを開発し、屈斜路カルデラ外輪山トレイル（美幌地区三町広域観光協議会）等の周辺地域とも連携しながら広域ロングトレイルの実現に貢献する。 <具多的な取組> MK Tの延伸ルートを調査し、関係者と協議の上整備を行う。（弟子屈町） MK Tに繋がるショートコースを調査し、関係者と協議の上整備を行う。（弟子屈町、北海道開発局、北海道） 利用者目線での道標、解説看板などを整備し、利用者数把握のためのカウンターを設置する。（弟子屈町、環境省、北海道、根釧西部森林管理署） 長期滞在利用者のための荷物運搬や送迎などのロジスティクスについて地域事業者と協議・検討する。（摩周湖観光協会） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 池の湯と仁伏半島散策路入口に解説看板を設置 トレイル概要地図を作成 ホームページの英語版を一部作成 美留和林道の代替ルートを決定（森林管理署の要請により） 延伸ルート（屈斜路プリンスホテル～美幌峠）の林道利用について森林管理署と未だ協議中 自主財源確保（グッズ販売開始）
取組名称	持続可能な観光の国際基準を活用した地域づくり			番号	KA- 6
取組主体	弟子屈町			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度までに持続可能な観光の国際基準を活用した、地域経済の再生と環境保全による観光地域づくり 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> SDGs（持続可能な開発目標）にも対応したGSTC（持続可能な観光の国際基準）を活用した観光地域づくりを実践し、世界標準での持続可能な観光地整備を図る。これにより、新型コロナウイルス終息後のインバウンド観光の回復時にいち早く優良な旅行者を呼び込み、交流人口拡大による地域経済の再生につなげる。また、専門人材の育成とDMO等を中心とした管理体制によるデスティネーション・マネジメント（観光地管理）能力が高まることが期待され、自然環境や文化遺産の保全、感染症や災害危機管理等の多面的な課題に対応した観光地域づくりを展開していく。 <具体的な取組> ①持続可能な観光地域整備計画策定事業として、国際基準に対応した関連計画等を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> 新規の観光計画・戦略等の策定、関連ガイドライン等の策定及び改訂等 ②持続可能な観光地域づくり体制強化事業として、サステナビリティコーディネーターの配置など、地域において持続可能な観光地域づくりを推進する体制を構築及び強化する。 <ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの配置、管理組織（DMO等）の設立及び強化、人材育成のための研修等 ③持続可能な観光指標モニタリング調査事業として、持続可能な観光の国際基準に基づき、持続可能性を評価分析する調査業務と運用体制を構築する。 <ul style="list-style-type: none"> モニタリング体制構築、持続可能な観光指標調査、モニタリング結果の公表（レポート、報告会）等 ④持続可能な観光地域プログラム開発事業として、地域において持続可能な観光の国際基準に対応したモデルづくりと観光コンテンツを構築する。 <ul style="list-style-type: none"> 観光商品、地域づくりプログラム開発及び強化、事業者支援プログラム実施等 ⑤持続可能な観光地域プロモーションとして、国際認証・表彰制度への参加や、旅行者・旅行会社・関連業界・メディア等に対するプロモーションを展開する。 <ul style="list-style-type: none"> プロモーション計画・戦略の策定、プロモーション強化、モニターツアー・ファムトリップ企画等 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興計画の推進 日本「持続可能な観光」地域協議会への参画（継続）
取組名称	川湯温泉におけるナイトタイム活用の推進			番号	KA- 7
取組主体	摩周湖観光協会、川湯地域運営協会、地域事業者、弟子屈町、環境省			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年から「川湯の森 ナイトミュージアム」の継続実施 令和3年に新たな夜間の時間帯利用方法の検討を行い、令和4年から実施する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年に満喫プロジェクトの一環として環境省社会実験として実施した「川湯の森ナイトミュージアム」の継続実施を始め、夜間の時間帯における国立公園の自然を楽しむ新たな利活用を推進する。 <具体的な取り組み> 「川湯の森ナイトミュージアム」の継続実施（摩周湖観光協会、川湯地域運営協会） 川湯地域にて夜間の時間帯を活用した催し等の検討及び実施（摩周湖観光協会、地域事業者） 川湯温泉街の回遊性を高める照明の設置（弟子屈町） 「川湯の森ナイトミュージアム」等の照明が生態系に与える影響の調査（環境省） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業を活用し、川湯の森ナイトミュージアムや森のマルシェ、硫黄山ライトアップ等を実施（※参考数値：川湯の森1,388人：森のマルシェ472人：アンケート54件）
取組名称	裏摩周園地内休憩所の再整備について			番号	MA- 1
取組主体	清里町			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度までに、休憩所の整備内容及び管理体制、サービス内容の充実に向けた方向性について、整理する 令和7年度までに上記方向性に基づき、施設改修・管理体制の再構築など必要な措置を講ずる 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 老化が進む裏摩周園地の休憩所について、再整備の方向性に基づき、施設の改修を検討するとともに、充実したサービス提供及び管理体制の強化を図る。 <具体的な取り組み> 裏摩周休憩所の再整備について、管理人・観光協会など関係機関との協議の場を設け、検討する。 また、提供するサービス内容の見直しやサービスを提供できる人材の育成など管理体制の強化についても同様に協議・検討して方向性を決定する。（清里町、きよさと観光協会） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光施設全般の将来的な管理体制について、きよさと観光協会と協議を重ねた

取組名称	神の子池周辺の整備について			番号	MA- 2
取組主体	清里町			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和5年度までに方針を決定し、令和6年度から神の子池周辺施設整備を行う	取組内容	・神の子池の駐車場・トイレ・管理棟の整備について調整を引き続き行う。 ＜具体的な取り組み＞ ・各施設の整備に向けて、国有林野を所管する林野庁など関係機関との調整を行う。（清里町、網走南部森林管理署） ・各施設整備の優先順位・施設規模等の具体的整理をする。（清里町）	進捗状況	・引き続き望ましい利用環境とするための整備方針をまとめる
取組名称	裏摩周展望台 - 神の子池トレイルルートにおけるツアー・プログラムの開発及びガイド付ツアーの確立			番号	MA- 3
取組主体	きよさと観光協会、清里町			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和4年度までに、コース標識・案内看板・コースマップ等を作製 ・令和4年度までに、ガイド付ツアーの検証・確立を行う	取組内容	・裏摩周展望台 - 神の子池トレイルルートについて、より質の高い体験プログラムの提供の実現に向けた検討を進め、コンテンツ化を図るとともに、ルート情報の整理を行い、プロモーションをかけるなど、魅力の発信に努める。 また、ガイドの育成強化を図り、ガイド付ツアーの早期実現を図る。 ＜具体的な取り組み＞ ・トレイルルートを活用したトレッキング・マウンテンバイクツアーなどのイベントを開催する。（清里町・観光協会） ・ガイド付きコンテンツの開発に向けた検討協議を進め、ルートの本格的活用を進める（観光協会） ・ルートของ所要時間・見どころ・ルート図などの情報を整理し、パンフレット等の作成を進める（清里町・観光協会） ・トレイルルートの魅力を十分に伝えるためのガイドの育成など受け入れ体制を確立する（観光協会）	進捗状況	・きよさと観光協会によりルートの現地調査、看板整備、倒木処理、草刈り、ガイド付き森林ウォーク、マウンテンバイクツアーを実施
取組名称	摩周第一園地の施設充実化			番号	MA- 4
取組主体	北海道（釧路総合振興局）、環境省、弟子屈町、林野庁（根釧西部森林管理署）			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和4年度までにインターロッキング、木柵、階段を整備する ・随時枝払いを行う	取組内容	・過年度に整備することのできなかった展望広場等のインターロッキングや木柵を補修する予定としている。 ・階段の改修、コンクリートブロック舗装のインターロッキングへの改修等を予定している。	進捗状況	・令和4年度に階段の改修、コンクリートブロック舗装部分のインターロッキングへの改修 ・令和5年度に銘板の補修
取組名称	摩周湖外輪山トレイルの整備			番号	MA- 5
取組主体	環境省、弟子屈町、標茶町、清里町、中標津町、林野庁（根釧東部森林管理署、根釧西部森林管理署）			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和3年～4年に西別岳登山道の再整備を行う ・令和4年までに摩周第一展望台と摩周第三展望台を結ぶトレイルを整備する ・令和5年までに摩周第一展望台と裏摩周展望台を結ぶトレイルを整備する	取組内容	・阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの路線の一部として、洗掘等で荒廃した西別岳登山道の再整備を実施するとともに、摩周第一展望台から摩周第三展望台、裏摩周展望台へのトレイルについて、関係者による維持管理体制の構築をした上で整備する。 ＜具体的な取り組み＞ ・各トレイルの整備及び維持管理体制について、関係者と協議の上で役割分担等を整理する。（環境省、関係自治体等） ・役割分担に応じて、摩周岳西別岳登山道の延長として新規ルートの整備について検討する。（環境省） ・役割分担に応じて、各トレイルの維持管理を行う。（関係自治体等）	進捗状況	・摩周西別岳登山道の再整備は令和6年度実施予定 ・摩周第一展望台と摩周第三展望台を結ぶトレイルの整備は柵上げ中 ・摩周第一展望台と裏摩周展望台を結ぶトレイルの整備は令和6年度に借り受け手続きを完了し、開通を予定
取組名称	屈斜路湖の魅力を引き出す高付加価値で新たな利活用			番号	KU- 1
取組主体	弟子屈町、北海道（釧路総合振興局）、環境省、林野庁（根釧西部森林管理署）、摩周湖観光協会			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和3年に屈斜路湖の魅力を活かした新たな利用に関する「屈斜路湖ビジョン」を策定する	取組内容	・広大で静寂な環境である屈斜路湖の魅力を最大限活かした高付加価値で新たな利用を推進する ＜高付加価値で新たな利用の例＞ ・屈斜路湖に飛び込む爽快感と、国立公園の雄大な景色の中での外気浴を売りにした、世界的なデスティネーションになるような本格的なサウナを屈斜路湖畔に設置し、地域活性化の核としていく（弟子屈町、北海道、環境省） ・砂湯については、屈斜路湖畔に面した広大で魅力的なキャンプ場があるが、道道に沿った長細い敷地で管理しづらく、一部の施設の老朽化が進みサービスが低下しているため、民間事業者と連携したサービス向上を図る（北海道、弟子屈町、民間事業者） ・現在上陸禁止となっている中島について、一定の制限の下にグランピングやダイニングアウト等の特別な体験が提供できるようルール作りを検討する（弟子屈町、林野庁、環境省） ・屈斜路湖畔の宿泊施設や空き別荘等を宿泊拠点としたワーケーションを推進し、クリエイティブな発想を生み出す仕事をする空間としての屈斜路湖の魅力を発進する（摩周湖観光協会、弟子屈町、環境省）	進捗状況	・屈斜路湖ビジョンの策定には至っていない

取組名称	屈斜路カルデラ外輪山トレイルルート整備調査事業			番号	KU- 2
取組主体	美幌地区三町広域観光協議会（構成員：美幌町、美幌観光物産協会、大空町、NPO法人オホーツク大空町観光協会、津別町、津別観光協会）、環境省、林野庁（網走南部森林管理署、根釧西部森林管理署）			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	・令和5年開通	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開通した調査道を活用し、実行ルート及びビューポイント候補地等を協議検討する。 ・地域住民への地域観光資源としてのトレイルの価値の理解と意識の醸成を目的とした研修会等の開催。 ・トレイルルートを作る意義や目的を定めた憲章の作成。ルート開通後の維持管理体制、維持管理費、維持管理母体のほか、ルート利用にかかるガイドラインの素案を作成する。 ・開発着手までのプランを検討する。 （例）三町協議会のほか、環境省、林野庁、北海道、開発局、自治体、自然団体などの関係機関を交え、トレイルルートの開発実行案について協議する場を設ける。 ・トレイル開通後の情報発信等による支援を実施する。（環境省） ・植物の群生等の環境調査を実施する。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターツアーの実施、植生調査の実施、測量の実施 ・令和6年開通
取組名称	和琴集団施設地区の再整備			番号	KU- 3
取組主体	環境省のみ			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度までに和琴探勝路の標識多言語化改修を完了する ・令和6年度までに園地の再整備を完了する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期利用など閑散期の利用可能性、繁忙期の安全利用指導、キャンプ場でのワーケーション対応などを検討し、既存の民間施設と連携しながら集団施設地区の再整備を進める。 ＜具体的な取り組み＞ ・既存民間施設も含めた集団施設地区全体の再整備計画を策定し、計画に基づく再整備を進めるとともに必要に応じて民間施設の改修等の支援を行う。 ・和琴探勝路の標識多言語化改修を実施する。 ・露天風呂周辺を中心とした園地の再整備を実施する。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に和琴探勝路の多言語標識の設置 ・地域の関係者と管理や利用のあり方について勉強会を開催 ・令和5年度に勉強会を踏まえた利用のルールの周知を実施 ・令和6年度に集団施設地区にかかる基本計画を策定予定
取組名称	津別峠展望施設展望スペースの拡張			番号	KU- 4
取組主体	津別町、弟子屈町、津別観光協会、摩周湖観光協会、観光事業者			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年までに、取組主体での方針確定 ・令和4年までに、自然付加価値を高める活用方法の検討 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・津別峠展望施設外構の展望スペースを国立公園内へ拡張することにより、ソーシャルディスタンスを保てるウィズコロナへの対応と、ロングトレイルの受け入れ態勢を整えることに加え、自然の付加価値を高める新たな利活用の可能性を探り、津別峠展望施設の国立公園区域への編入も含めて検討した上で、整備方針を決定する。 ＜具体的な取り組み＞ ・展望スペースの拡張に関し、取組主体にて方針の確定 （津別町・弟子屈町・観光協会・観光事業者） ・林野庁、環境省へ拡張の可能性についての確認（津別町・弟子屈町） ・林野庁、環境省へ修景林の剪定可否の確認（津別町・弟子屈町） ・展望スペース拡張の自然環境等の調査（津別町・弟子屈町） ・自然の付加価値を高める活用方法の検討及び持続可能な運営体制の構築をする。 （津別町・弟子屈町・観光協会・観光事業者） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・津別峠展望施設を含む上里地区の国立公園編入を目指し、10月5日にキックオフイベントを開催 ・年度内に国内の先進地の視察し、今後の方向性を協議する。
取組名称	看板・標識類のデザイン統一および多言語化によるブランド力の向上			番号	NP- 1
取組主体	環境省、関係自治体、林野庁（関係森林管理署）、国土交通省北海道運輸局、広域観光協議会			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年までに公園名の更新率100%、令和7年までに主要な看板等の多言語化率・新デザイン採用率100% ・多言語解説文の利用者増 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各主体が国立公園内で整備する主要な看板・標識等について、古い情報を更新し、多言語化を図るとともに、全国の国立公園での統一感と阿寒摩周国立公園の特性を考慮した新たなデザインを採用し、阿寒摩周国立公園のブランド力向上を図る。（環境省） ＜具体的な取り組み＞ ・令和2年に作成した主要看板のデータベースに基づき、看板設置者は多言語化、公園名の更新と撤去を積極的に進めると同時に重複する内容の看板がある場合は、統合についても関係者で協議する。（環境省、関係自治体、林野庁） ・阿寒摩周国立公園で採用するデザイン案を示し、各主体が国立公園内で看板・標識等を整備する際の許認可手続き等を通じて、統一が図られるように促す。（環境省） ・ブランド力向上に向け、WEBによる周知や、デザインの利活用を推進する。 （広域観光協議会） ・設置者不明の景観を著しく損ねている看板について、関係者と協議のうえ撤去を推進する。 （環境省） ・国立公園の魅力をネイティブ視点で構成された多言語解説文を、様々な媒体で活用されるよう各自治体やDMO等へ共有を図る。（国土交通省北海道運輸局） ・多言語化に関する補助事業が実施される場合には、協議会構成員への周知および支援を行う。 （環境省） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に和琴探勝路等新設する標識の多言語化を実施 ・令和5年度に硫黄山の古い公園名称の看板を更新（弟子屈町）

取組名称	プロモーションおよび効果的な情報発信の実施			番号	NP- 2
取組主体	環境省のみ			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年までにホームページについて検討・改変し、令和6年から運用を開始する 令和5年までにSNS等を使った情報発信について検討し、令和6年から運用を開始する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 環境省本省が令和2年度に策定するプロモーション戦略にもとづく各種プロモーション事業を実施し、利用者目線に立った阿寒摩周国立公園の情報発信を検討・実践する ＜具体的な取り組み＞ プロモーションにかかる本省の業務について地域内調整などを行い効果的な遂行をサポートする 本省業務のインバウンド向け国立公園のウェブサイト（JNTO）の更新等に対応する 国立公園のホームページ（日本語）について、現存する関係ウェブサイトの統合なども視野に検討し、改変する ウィズコロナを意識しつつ、SNSなどを使ったタイムリーな情報発信について運用ルールを含め検討し、運用を開始する 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ホームページについては、本省一括管理となり改変が難しいため、個票の見直しが必要 引き続き、ホームページ（日本語及びJNTO）の更新を継続
取組名称	脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等の推進・支援			番号	NP- 3
取組主体	環境省、自然公園財団川湯支部、自然公園財団阿寒湖支部			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度までに公用車のEV導入及びEV充電スタンドを設置する 令和3年までに国立公園で活用できる各種支援メニューを分かりやすく整理して情報提供する 主な国立公園利用施設について令和7年までにRE100の実現を目指す 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 国立公園内のビジターセンター等の環境省直轄の利用施設において、率先して脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等を推進するとともに、国立公園内の利用施設及び交通等について、自治体及び民間事業者による脱炭素化及びプラスチックゴミの削減等の取り組みを支援する。釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町は共同でゼロカーボンパークに登録し、登録時に提出した自己チェックシートに基づく取り組みを連携して進める。 ＜具体的な取り組み＞ 公用車でのEV導入及びEV充電スタンドの設置を進めるとともに、当面の間、自然公園財団が管理する国立公園の公共駐車場においてEVの駐車料金を無料化する等により、国立公園内でのEV普及を推進する。（環境省、釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町、自然公園財団川湯支部、自然公園財団阿寒湖支部） 主な国立公園利用施設（阿寒湖畔EMC、川湯VC等）において、プラスチックゴミが発生するサービスの提供を原則として廃止するとともに、給水器の設置よりマイボトルの使用を推奨し、プラスチックゴミの削減を図る。（環境省、釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町） 自立分散型エネルギーとして期待される温泉を活用した熱供給や発電事業を促進する“ゼロカーボン温泉地”のポテンシャル調査を行い、調査結果を踏まえ設備導入等の支援を実施する。（環境省） 国立公園宿舎施設の省CO2改修、温泉熱の活用、グリーンモビリティの推進など、エネルギー対策特別会計等の国立公園で活用できる事業を分かりやすく整理して情報提供するとともに、それらを活用した事業により自治体及び民間事業者による脱炭素化等の取り組みを支援する。（環境省） 国立公園内および周辺の公共施設において、新たな公共施設の建設や改修にあわせて温泉熱、地中熱、バイオマス、太陽光発電等の再生可能エネルギーを活用したCO2排出削減に積極的に取り組む。（環境省、釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町） 国立公園内の施設については、再生可能エネルギー由来の電力調達に切り替えることなどにより、RE100への対応について検討するとともに、民間事業者の施設においてもRE100対応の検討を促す。（環境省、釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 川湯VCと和琴FHのRE100化
取組名称	「秀逸な道」による道路景観の確保			番号	BA- 1
取組主体	国土交通省北海道開発局、関係自治体			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年までに対象区間の景観診断を実施 令和7年までに道路景観診断に基づいた対策内容について実施完了 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 道路そのものが観光資源となるべく、魅力ある道路景観を有する区間を「秀逸な道」と定め、当該区間の更なる魅力向上のために地域と道路管理者が協働で取組を推進する。 ＜具体的な取り組み＞ 「秀逸な道」区間選定完了後、区間内における景観診断を地域団体等と行い、良好な景観確保に向けた取り組み内容を検討（国土交通省、関係自治体、環境省、地域団体）し、対策内容を決定。 対策内容について関係機関と調整し、対策を実施。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 秀逸な道看板の設置
取組名称	二次交通のシームレス化			番号	BA- 2
取組主体	国土交通省北海道開発局			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度以降に自走化を目指す 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の北海道内空港民間委託を契機とした二次交通活性化に関するワーキング立ち上げ、釧路空港・阿寒湖間等を運行する既存二次交通の利便性強化に関する調査を行ったことから、調査結果を翌年度以降に展開。 広域周遊観光促進のための観光地域支援事業の一環として、2次交通フリーパス導入に向けた受入環境整備を行ったことから利用促進を計る。（国土交通省） ＜具体的な取り組み＞ 既存二次交通の利便性強化に向けて道東エリアを含むバス事業者のバス路線を一体的にネットワーク化する調査を実施し、公共交通の利用促進効果、周遊観光促進効果等を検証。調査結果をふまえて自走化を図る。 二次交通フリーパスの利用促進を計る。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 二次交通利便性強化として自走化の検討 フリーパス利用促進として道内観光関係者に対し、適宜情報提供

取組名称	ひがし北海道3空港をつなぐロングトレイルの推進			番号	BA-3
取組主体	環境省、林野庁（関係森林管理署）、国土交通省北海道運輸局、関係自治体、観光協会			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年までにトレイル運営体制を固める 令和7年までに新規トレイルおよび宿泊施設の整備を完了する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ロングトレイル運営体制とトレイル維持管理体制を構築し、阿寒摩周国立公園内をめぐるトレイルとひがし北海道3空港と国立公園をつなぐロングトレイルの実現を目指す。 <具体的な取り組み> 阿寒地域と摩周地域を結ぶ新規トレイルの直轄整備に向けた準備および整備を実施（維持管理体制の決定、路線の決定、環境調査の実施、歩道整備）（環境省） ロングトレイル上の宿泊地点（約20km間隔）を設定し、必要に応じて宿泊施設拠点（山小屋、野営場など）として公園計画に位置づけ、整備に向けた準備および整備を実施（環境省、関係自治体） ひがし北海道3空港から国立公園内のトレイルを繋ぐ広域の仕掛けとして、サイクリング、ロングカヌーなどの非動力の移動アクティビティを検討し、実現に向けた課題を整理したうえで解決方法を関係者で協議、実践（環境省、北海道運輸局、北海道開発局、関係自治体と観光協会） ロングトレイル運営体制およびトレイル維持管理体制案を策定し、地域で協議・合意（環境省） ロングトレイルの共用と情報発信を開始し、モデルコースを設定してモニターツアーを実施（観光協会） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度にシンポジウムを開催 令和5年度に名称を決定、トレイルルートの決定、ハイキングイベントを開催、ロゴマークを決定予定、憲章を決定予定、管理運営体制の検討、管理運営計画の策定
取組名称	阿寒摩周国立公園におけるインナーブランディングの推進			番号	BA-4
取組主体	環境省、広域観光協議会			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年までに阿寒摩周国立公園に関するストーリーをまとめたブランドブックを作成する 令和3年までに国立公園内の適切な事業者の支援の仕組みを検討し、実行する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 阿寒摩周国立公園の観光事業者や地域住民が、国立公園の豊かな自然環境を基盤として事業や生活が成り立っていることを理解し、旅行者に対しても国立公園の魅力や特徴を自らの言葉で語れるようにインナーブランディングを進める <具体的な取り組み> 阿寒摩周国立公園の観光事業者や地域住民から、国立公園の自然にまつわる生業や暮らしに関するストーリーを聞き出し、文章化してまとめたものをWEBや冊子等の媒体としてまとめて発信する（環境省） 関係自治体と連携し国立公園の内外に積極的に周知を図る。（広域観光協議会） 国立公園内で自然環境への保全などに取り組みながら適切に営業している事業者に対し、国立公園ロゴマークの使用を認めるなど、応援できるような仕組みについて検討する（環境省） 国立公園の管理運営への協力者を増やしていくため、観光事業者や地域住民向けに、国立公園の役割や制度についての理解を深めるための機会をつくる（環境省） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に前年度作成した自然の郷ものがたり第3号を弟子屈町及び旧阿寒町に全戸配布
取組名称	国立公園へのアクセスルート上での情報発信の強化			番号	BA-5
取組主体	環境省			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度中に多言語対応案内板の設置について関係者との調整を行い、令和4年度中に設置する 令和3年から空港、主要交通拠点に誘客に有効なパンフレットの設置を開始し、在庫管理を行う 令和3年までに阿寒湖地域、摩周地域の最も主要な入口にエントランス標識を設置し、地権者等との調整が付き次第順次設置箇所を増加させ、令和5年度までに主要な入口全てに設置する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 主要交通拠点において、阿寒摩周国立公園に誘導するための多言語に対応した案内板・パンフレットの検討・設置等を行うとともに、利用者が国立公園であることを認知しやすいエントランス標識を設置する。 <具体的な取り組み> 女満別空港への多言語対応案内板の設置を目指し、関係機関と調整を行う。（環境省） 各空港、主要駅、道の駅等に国立公園内に誘導する内容の、多言語化したパンフレットを設置する。（環境省） 道路管理者、土地所有者と調整し、アクセスルート上にエントランス標識を設置する。（環境省、（道路管理者・土地所有者として国土交通省北海道開発局、北海道）） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きパンフレットの配架を実施

取組名称	アドベンチャートラベルの推進			番号	BA- 6
取組主体	国土交通省北海道運輸局、環境省、経済産業省北海道経済産業局、北海道			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年以降も継続したプロモーションの実施 令和4年までに新しいアクティビティの可能性について検討し、課題を整理する 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ATWS 2023の北海道開催によりアドベンチャートラベル（以下、AT）旅行目的地としての認知度を飛躍的に高め、北海道におけるATの更なるブランド化を図るため、平成29年6月に設立の「北海道アドベンチャートラベル協議会」等と連携し、継続してプロモーションやATツアーの磨き上げ、ガイド育成等を実施していく。 知床国立公園、釧路湿原国立公園と連携し、ひがし北海道におけるATの受入れ体制を強化する。 <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ATWS 2022でのPR。 （国土交通省北海道運輸局、経済産業省北海道経済産業局、ATWS北海道実行委員会） 旅行会社及びメディアによるファムトリップ。（国土交通省北海道運輸局） 識者、専門家の検証・助言によるATツアーの磨き上げ（国土交通省北海道運輸局） WEB、SNS等による情報発信。（国土交通省北海道運輸局） 令和3年のATWS開催期間中にひがし北海道3公園のPRを実施する（環境省） 阿寒摩周国立公園の新しいアクティビティとしてマウンテンバイク、クロスカントリースキー等の可能性を検討し、課題を整理する（環境省） 阿寒摩周国立公園内のビジターセンタースタッフ向けのATに関する研修を実施する（環境省） 上記取組の知床国立公園、釧路湿原国立公園への展開について各公園とともに検討する（環境省） AT推進に向けた商品造成、販路拡大支援（経済産業省北海道経済産業局） ATWS 2023開催に向けた観光関連産業のビジネス創出支援（経済産業省北海道経済産業局） 北海道アウトドアガイド等の育成研修の実施及びATに対応した新たなガイド制度の検討（北海道） 冬期を含めた通年の商品造成、及びATツアーの磨き上げ（北海道） PR動画制作、WEBサイト整備（北海道） ATWS 2023開催に向けた計画策定及び開催時に行うツアーの充実・造成（ATWS北海道実行委員会） 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ATWS北海道、日本開催 観光関連産業のビジネス創出支援
取組名称	阿寒摩周国立公園広域観光協議会による1市10町の機能強化			番号	BA- 7
取組主体	広域観光協議会			取組状況	未取組（取組断念 / 取組延期）・取組予定・取組中・取組完了
目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年までに新型コロナウイルス感染症対策の取組情報を共有し、特に各業界団体が作成したガイドラインの徹底についてはATWS開催までに1市10町全体のレベル向上を推進し、観光事業者や観光客へのPRを行う 令和4年までに二次交通の改善について、関係機関と情報共有及び協議を行い、社会実装等が実施される場合は実施に向け協力する 令和7年までに主要観光施設の多言語化対応の完了を目指す 	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、当面はWEBを中心とした発信力強化を主力として、レンタカーを利用するFITに対するアプローチを行いつつ、インバウンド需要が復活した場合を見据え、新しいスタイルの観光に必要な機能の構築に向けた取組を実施する。 <p><具体的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 関係自治体による新型コロナウイルス感染症対策に係る情報共有を行い、クラスター（集団感染）発生によるブランド力の低下を防ぐ取組を国立公園エリア内で徹底させる。 道東を観光する国内外の観光客共通の課題である二次交通の改善について、国土交通省など関係機関と情報共有及び協議を行い、具体的な充実策の実施を検討する。 インバウンド需要の復活を見据え、多言語対応などの受入体制整備について意見交換を行い、共通課題についてはロードマップを作成し歩調を合わせて推進する。 	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの増刷 雑誌での記事掲載 第1・2回Instagramフォトコンテストの受賞作品展示会を開催予定 SNS（Instagram）を活用した阿寒摩周国立公園構成市町のPRの継続 フォトコンに代わるドライブ観光客をターゲットとしたイベントの実施検討